

手賀沼流域事例報告「共に育む 里山を生かしたまちづくり」

発表者/ NOP 法人 しろい環境塾 副理事長 興津 功 さん

■ すばらしい景観の場所に産廃!? というので片づけたのが始まり

NPO 法人しろい環境塾の興津です。私自身白井市の市民ですが、環境塾はどちらかというと活動集団です。自ら汗を流して畑仕事をやったり、山で木を伐り出したり竹を伐ったり野菜を育てたりしています。白井市はニュータウンで一部農村地帯ですが、ニュータウンの新住民もいるところです。その中でも、われわれが活動しているのは平塚という地区です。山と谷津田があって非常に景観がよく、滝田家という国の重要文化財もあるすばらしいところです。

しかし、最初の始まりはそういうすばらしいところが荒れていたことでした。20年ほど前、市が退職者のために開講している健康福祉大学という大学校で、「景観のいいところを歩きましょう」という企画がありました。

景観はよかったのですが、この平塚地区、産廃が大量に捨てられている場所でもありました。それで、参加者の一人が呼びかけ、市と地元と一緒にこれを片づけたのがしろい環境塾の始まりです。2000年4月に設立、2001年から活動を開始しました。最初は10何名でしたが、現在は理事が20名、全体として100名くらいの会になっています。

基本的に週3日、月水土の10時～15時くらいに活動していて、常時30名くらいが参加しています。定例の活動の2本の柱は「里山保全部」と「農業支援部」です。「子どもの環境教育部」は主に年間5回の田んぼの学校です。「市民交流部」はニュータウンに住んでいる人たちに私たちの活動を理解してもらい、白井のいいところ、景観のすばらしいところを知ってもらい、もしかして活動に参加してもらおうという活動をしています。私はこの担当なので今日も来ました。メンバーは私ひとり。代表でやっています。これら定例の活動のほか、地域のお祭りなどのイベントがあり、毎日忙しくしています。

ベースキャンプはすぐ下が谷津田になっている場所で、作業用の備品も完備しています。炊事場もあります。地元の方がわれわれの活動に賛同して、井戸からポンプアップして水を提供してくれています。毎年水質検査をして飲料可ということで、非常にいい井戸水が出ています。

■ 荒れた場所を整備し、谷津田の景観を保全する

下手賀の谷津田の景観をしっかりと保全するというのがわれわれの共通の理念です。田んぼは田んぼらしく、畑は畑らしく、管理しながら景観を保つ活動をして、市民がお子さんを連れて楽しめる場を目指しています。写真は印西の「つくしんぼの会」の人たちが10歳以下の子どもたちを連れてきて、



第23回環境ウォッチング 平塚地区

2. 事業の運営体制 2017年度

- 理事会** (理事20名、監事2名)
(事務局、会計、企画委員会、各事業部委員会)
- 里山保全部** (森林23フィールド合計8ha管理)
(炭焼、竹細工の製作、販売)
- 農業支援部**
(農地再生27フィールド3.6ha管理)
- 子どもの環境教育部** (「田んぼの学校」、食育)
- 市民交流部** (講演・講習会、里山まつり、写真展、企業CSR対応など)
- 施設管理部** (各種機材の整備、倉庫等の管理)



里山景観づくり（ザ・ファーム平塚）



夏に用水路に足をつけ、泥だらけで遊んでいるところです。こちらは刈った稲をホダがけにしているところ。こちらはコスモス畑。そういう景観をつくらうということです。

「里山保全部」では竹林の整備、森林や公園などの整備などを行っています。竹やぶは伐採しないといいタケノコもできず、動物も入らず、生物多様性が保てないので整備します。竹林の所有者から依頼されてやる場合がほとんどですが、竹は毎年どんどん生えるので、継続的に活動しています。これは荒れた場所の写真ですが、こういう状況はどこでも起きていると思います。地元の方と話し合い、「それなら整備してくれませんか」「やりましょう」という形でやっています。荒れた田んぼを復元させることもあります。白井市の補助金をもらい、市の運動公園の森も管理しています。



白井市運動公園の森（手入れ前）



白井市運動公園の森（作業中）



白井市運動公園の森（手入れ後）

素人集団ですから、専門家を講師に招き、技術的なことを教えてもらいながらやっています。また、伐採した木や竹はできるだけ再利用しています。竹は竹炭にしたり大きな靴ベラなどの竹細工製品を作り、いろいろな機会に安い値段で売ったりしています。竹を粉碎して寝かせ、糠をまぜて発酵させて肥料も作ります。田んぼや畑での有機栽培に利用しています。地元の人々の知恵を借りながらやっています。

■ 耕作放棄地を再生し、野菜やそば作りも

「農業支援部」は主に耕作放棄地の再生です。高齢化で田畑を耕作できなくなった方が増え、耕作が放棄されます。すると藪になり、植物や動物の単一化が進みます。これを元の田畑に帰すことが生物多様性にもよく、昔の景観も取り戻せるのではないかと考え、耕作放棄地を管理・生産ができる農地に戻そうと活動しています。再生後、管理を頼まれることも多く、その場合は野菜作りもします。市民に呼びかけ、そばの栽培講習会などもやっています。一緒にそばの栽培をし、収穫した玄そばを信州に送って粉にしてもらい、みんなで打って食べるまでやります。われわれも素人ですが一緒に勉強しましょうと小型耕運機の講座はじめ、いろいろな



05年耕作放棄田解消に着手 ザ・ファーム平塚



耕作放棄畑を生産農地に 野菜や小麦の栽培



そばの栽培講習会

（ザ・ファーム十倉一）

講習会もやっています。企業の CSR 活動の場として提供し、農作業もやっています。白井は梨が有名ですが、梨農家も高齢化が進み、受粉、摘果、収穫を手伝ってほしいという話があるので、お手伝いもしています。



食育 サツマイモ・落花生栽培 (ザ・ファーム十数)

地元農業者支援活動 (ナシの摘果)

「子どもの環境教育部」は先にお話したように、メインは田んぼの学校です。4月1日に募集を出し、ほぼ1週間で定員40人はいっぱいになります。親御さんとあわせて90人くらいが来ます。田植え、田んぼの生き物調査、かかしづくり、稲刈りなどをします。東邦大学に協力し、市民も巻き込んでカメの調査も行っています。最初は神崎川の護岸工事で生き物が住めなくなるということで、カメの救出作戦をしました。その後ずっと続き、イシガメが網にかかると、「ああ、今年もかかった」とほっとします。カメは甲羅に穴を開け、何年に捕獲したかわかるようになっています。



田んぼの学校 田植え



田んぼの学校 生きもの調査



田んぼの学校 稲刈り

■ 流しそうめんに延べ700人、お祭りに260人

「市民交流部」では市民の方をこの場所に呼んで景観を楽しんでもらうと同時に、この景観を保つためにはどうしたらいいかを考えてもらおうといろいろなイベントを開催しています。7~8月には流しそうめんの会に開放しています。今年は11団体、延べ700人くらいが来て流しそうめんを楽しんでもらいました。また、年1回、「ぐるっと一周平塚の里」というイベントを手賀沼流域フォーラムの助成で開催しています。20人くらいを対象に下手賀の景観や歴史的文化的要素を見ていただいています。

われわれは作業集団であり、自分たちの技量を高めなければならないので、各種講習会を開いて技量アップにも努めています。

これも市民に広報し、やりたい方に応募・参加してもらっています。刈払機の講習会、木の伐採の講習会、農業体験のためのトラクター講習会などを開講しています。農業体験もよく行います。



ぐるっと一周平塚の里 (手賀沼流域フォーラム白井企画)

延命寺



下手賀沼

もうひとつ大事なことは、地元農家の理解のもとで活動することです。何かと機会をとらえ、餅つき、石窯でのピザづくりなど、地元の皆さんと一緒に楽しんでいます。また、地元の方と会議をし、われわれがどう関わるか考えるため、**白井市平塚田園自然再生活用協議会**というのを作りました。市民に来てもらい、活動について理解してもらうため、「**里山まつりイン平塚**」というお祭りを毎年行っていて、今年5回目を迎えますが、これをこの協議会としろい環境塾の共催でやっています。地元白井の合唱グループや太鼓集団も出演し、第4回目の昨年は260名がきました。われわれが栽培しているものもこういう機会に販売しています。

**5. 里地里山の地域資源を活用した取り組み
～白井市平塚田園自然再生活用協議会～**

2012年3月 平塚地区の農業者としろい環境塾が、「白井市平塚田園自然再生活用協議会」を設立、農水省関東農政局長に「平成24年度食と地域の交流促進対策交付金事業実施計画案書」提出。採択後の7月事業開始。

12～13年度 「大泉 風の学校」など先進地へ視察・研修。協議会として具体策を検討。

13年10月 第1回「里山まつり」開催。以降毎年開催。

14年 4月 市民体験農園「えびちゃん農園」開設。

15年10月 第3回「里山まつり」開催。



■ **カエルがいれば鳥もいて虫もいる**

生物多様性については、われわれは活動の中で多様な生き物の復活作戦をやっています。**冬水田んぼ**もやっていますし、ビオトープではカエルを中心に生物調査もしています。なぜカエルかというと、カエルはちょうど中間の生物と思うからです。いろいろなカエルがいて、エサとなるバッタ、クモなどもたくさんいます。鳥などカエルを食べる生き物もいます。その数によってこの土地が健康かどうか測ることができます。カエルを食べる生き物としてはオオタカに注目しています。オオタカがいてカエルがいるということは、食物連鎖のピラミッドが整った健康な土地ではないかと思うからです。



アカガエルは1月末～2月初頭に卵塊を生みますが、それには水のある場所が必要なので、冬水田んぼがその場所になります。毎年、卵塊の数を数えています。今まで一番多かったのは2012年の30個で、今年は16個でした。カエルの調査はカメと同様、東邦大学と一緒に続けています。



最後にわれわれが心掛けています。地元関係者と信頼関係を築くこと、身の丈に合った活動をすること、より多くの市民を巻き込むこと。また、ボランティア活動は楽しくなければ続かない。対等の関係で過去の仕事の話は

生息数が増えつつある
ニホンアカガエル

しない。自由参加が基本で縛りがない。作業メニューから好きな作業に参加できるなど。作業には30人くらい集まりますが、「今日はこういう作業があります」と事前に計画しておきます。そして、「畑に行ってくれる人」はいい、「田んぼに行く人」はいい、「竹林で伐採してくれる人」はいいと人数を割り振

りしてやっています。そして、新しいことを提案したら、自ら率先してやること。そんなふうにしてやっています。

【質疑応答】

Q これだけの活動を市民と一緒にできるなんてすごいなあと敬意を表します。最初のほうのお話で護岸工事のときのカメ救出作戦ですが、あのカメは駆除するのですか？ それともカメも活動の一環ですか？

興津 カメは今のところカミツキガメやワニガメはいません。外来種はミシシippアカミミガメがいますが、処分などはしていません。われわれは東邦大学の調査に協力しているにとどまります。

Q 耕作放棄地の管理を引き受けられているとのことですが、草取りはどうされていますか。

興津 それがいちばん大変です。今われわれが管理しているのは 13 ヘクタールですが、年々増えています。「主人が倒れて動けないので、管理してくれませんか」というお話がどんどん来ます。しかし、われわれも活動に出られるのが約 30 人で高齢化しています。無理だとお断りすることもあります。やれる範囲とは「自分たちが管理している近隣」です。離れたところはむずかしいのでお断りしています。

草刈は大変ですが、平らなところなら市の大きな草刈機が借りられます。乗って草刈ができるものです。あぜ道など狭いところは刈払機でやっています。環境塾に入ると最初に講習を受け、習得するのは刈払機の操作です。安全に使うため、講師を招いて講習会を毎年やっています。

Q 水田の畔は除草剤？

興津 環境塾は保全団体ですから、一応除草剤を使わず、手でとっています。でも、とてもやりきれません。農家に比べると収穫量も 80 パーセントくらいでしょうかね。でも、自分たちでやり、そのためのお金も出し合い、収穫したお米も分けますから、そのくらいはしょうがないかなと考えています。農家さんにも「そのくらいで仕方がない」とあきらめてもらっているのではと思います。その意味でも、地元の農家とコミュニケーションをしっかりとることが必要なのかなと思います。

Q 以前観察会で伺ったとき、上のほうには狩猟用の水たまりがあってかなりトンボが来ているし、左奥にはアカガエルの産卵がものすごくありました。谷津の中では非常に重要な場所と思いました。

興津 トンボは本当に種類が多いです。ただ、カモ場を所有している方がもうやらないといっています。ただ、水はためてくれています。

Q すごく大事な気がします。

平岡 時間になりましたので、最後に宮下さん一言お願いします。

宮下 広範囲に多彩な活動をされていて驚きました。特に、放置されて暗くなった森を整備されていますね。高度成長期前、この地域一帯は牧で、明るい疎林みたいな環境だったと思います。こういう取り組みが面的な広がりを見せると、生き物の生息地になるだろうと思います。ぜひ今後も続けてください。

白井市 しろい環境塾の活動は、平成 29 年度都市景観大賞（主催：「都市景観の日」実行委員会、後援：国土交通省）「景観まちづくり活動・教育部門」優秀賞（里山を生かしたまちづくり）を受賞されています。畑のことなどで質問がありましたが、田んぼを借りるときも口約束です。契約書などは結びません。それだけ信頼関係がある中で活動されているので、お互い様でやれているのかなと思います。

② 活動に参加する会員の拡充

環境塾のコンセプト

- ア ボランティア活動は楽しくなければ続かない
- イ 対等の関係で、過去の仕事の話を聞かない
- ウ 自由参加が基本で縛りがない
- エ 作業メニューから好きな作業に参加できる
- オ 提案を尊重。OKなら提案者から率先実施

週3日（月、水、土）の作業日

参加は自由

（集まる人数は当日にならないとわからない）

各種講習会を企画・開催

